

Oracle® Database

リリース・ノート

10g リリース 1 (10.1.0.2.0) for Microsoft Windows (64-bit)

部品番号 : B13948-06

原典情報 : B13800-04 Oracle Database Release Notes, 10g Release 1 (10.1.0.2.0) for 64-Bit Windows

2005 年 6 月

このリリース・ノートの情報は、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1.0.2.0) for 64-bit Windows の公開時点での最新情報です。現時点での最新情報は、次の URL の Oracle Technology Network (OTN) にあるオンライン・リリース・ノートを参照してください。

<http://oracle.com/technology/documentation/>

このリリース・ノートは、64-bit Windows 製品向けの主要リリース・ノートです。Oracle Database をインストールする前には、『Oracle Database プラットフォーム共通日本語 README』および Oracle Database のリリース・ノート (32 ビット版) も読むことをお勧めします。

関連資料：『Oracle Database プラットフォーム共通日本語 README』
および 32 ビット版の Oracle Database のリリース・ノートは OTN で入手できます。

このドキュメントは、2005 年 1 月に発行された『Oracle Database リリース・ノート for Microsoft Windows (64-bit)』を更新したものです。この更新版の情報は、2005 年 4 月現在のものです。Oracle Database 10g リリース 1 (10.1.0.3) の Patch Set 1 は Oracle MetaLink からダウンロードできます。Oracle Database のインストールに成功した後、最新の Patch Set をインストールすることをお勧めします。

<http://metalink.oracle.com/>

このリリース・ノートの内容は、次のとおりです。

- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
- [ドキュメント](#)
- [サポートおよびサービス](#)
- [README ファイルの場所](#)
- [64-bit Windows でサポートされないコンポーネント](#)
- [Windows Server 2003 でのインストール前のステップ](#)
- [Oracle7 リリース 7.3.4 データベースのアップグレード](#)
- [Oracle9i データベースから Oracle Database 10g へのアップグレード](#)
- [OLAPSYS が所有する無効なパッケージ](#)
- [Real Application Clusters におけるサービスおよび高可用性](#)
- [Windows Server 2003 での Oracle HTML DB のインストール](#)
- [VIP コンフィギュレーション・アシスタント](#)

ORACLE®

Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle® Database は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

1 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

2 ドキュメント

詳細は、次の URL で入手できる Oracle Database 10g リリース 1 (10.1.0.2.0) 関連のドキュメントを参照してください。

<http://oracle.com/technology/documentation/>

3 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

3.1 オラクル社カスタマ・サポート・センター

オラクル製品サポートの購入方法、およびオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

3.2 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

3.3 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

3.4 その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

4 README ファイルの場所

追加コンポーネントの README ファイルは、インストール後に参照できます。それぞれ次の場所にあります。

- `ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\doc`
- `ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\relnotes`
- `ORACLE_BASE\ORACLE_HOME` ディレクトリの製品サブディレクトリ

5 64-bit Windows でサポートされないコンポーネント

次のコンポーネントは、64-bit Windows ではサポートされていません。

- Business Components for Java (BC4J)
- DCE and CyberSafe Adapter Support
- Entrust PKI Support
- Generic Connectivity
- INSO フィルタは、Windows XP 64-bit Edition Version 2003 for 64-bit Itanium 2 Systems ではサポートされていません。
- JavaServer Pages
- nCipher Accelerator Support
- Oracle Data Provider for .NET
- Oracle Enterprise Integration Gateways (次のものを含む)
 - Oracle Procedural Gateway for APPC
 - Oracle Transparent Gateway for IBM DRDA
- Oracle Enterprise Manager Grid Control CD

64-bit Windows 版の Oracle Enterprise Manager Grid Control は、このリリースではありません。64-bit Windows コンピュータのノードをリモートに管理するには、Linux システムから Linux 版の Oracle Enterprise Manager Grid Control を使用します。

- Oracle Enterprise Manager Java Console
- Oracle Messaging Gateway
- Oracle Migration Workbench

Oracle Migration Workbench は、32-bit Windows 環境から実行して、リリース 9.2.0.1.7 以上でサポートされているサード・パーティのデータベースを、64-bit コンピュータにインストールされた Oracle Database 10g リリース (10.1) データベースに移行することができます。
- Oracle Objects for OLE
- Oracle Open Gateways (次のものを含む)
 - Oracle Transparent Gateway for Sybase
 - Oracle Transparent Gateway for Teradata
 - Oracle Transparent Gateway for Microsoft SQL Server

- Oracle Workflow Builder

Oracle Workflow Server の Oracle Workflow Builder 機能は、Oracle Database for 64-bit Windows Client CD には収録されていません。Oracle Database for 32-bit Windows Client CD にのみ収録されています。32-bit コンピュータから 64-bit コンピュータに接続するための Workflow Builder の使用はサポートされています。

- Pro*COBOL

6 Windows Server 2003 でのインストール前のステップ

Windows Server 2003 で RAW パーティションまたは論理ドライブを使用するには、ディスクの自動マウントを有効にする必要があります。ディスクの自動マウントは、次のものに対して有効にします。

- Oracle Real Application Clusters (RAC) 用の RAW パーティション
- Oracle Real Application Clusters 用の Cluster File System
- Oracle クラスタウェア
- 単一ノード・データベース用の RAW パーティション
- 自動ストレージ管理 (ASM) 用の論理ドライブ

自動マウントを有効にするには、次のようにします。

1. コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
C:¥> diskpart
DISKPART> automount enable
DISKPART> exit
```

2. コンピュータを再起動します。

注意： クラスタ内のすべてのノードでは、RAC および Oracle クラスタウェアを正常にインストールするために、自動マウントを有効しておく必要があります。自動マウント機能は、データベース、ASM または Cluster File System で使用する論理パーティションを作成する前に有効にすることをお勧めします。

この機能を有効にした後、各ノードを再起動する必要があります。有効にしてノードを再起動すると、自動マウントは無効にするまでアクティブになります。

関連資料： DiskPart の詳細は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

7 Oracle7 リリース 7.3.4 データベースのアップグレード

次の手順は、Oracle7 リリース 7.3.4 データベースを 32-bit Windows から Oracle Database 10g リリース (10.1) for 64-bit Windows にアップグレードする方法について説明しています。

直接アップグレードはサポートされていません。新リリースの Oracle Database 10g にアップグレードするには、次の手順を実行します。

- [Oracle9i リリース 2 \(9.2\) へのアップグレード](#)
- [Oracle Database 10g リリース 1 \(10.1\) へのアップグレード](#)

関連資料： 32-bit Windows の Oracle8i、Oracle9i および Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) のデータベースの 64-bit Windows へのアップグレードの詳細は、Oracle Database のプラットフォーム・ガイドの付録 G 「Oracle Database for 64-bit Windows」を参照してください。

7.1 Oracle9i リリース 2 (9.2) へのアップグレード

次の手順に従い、Oracle7 リリース 7.3.4 データベースを Oracle9i リリース 2 (9.2) にアップグレードします。次の手順を完了すると、64-bit Windows で Oracle9i リリース 2 (9.2) データベースを使用できます。

32-bit Windows コンピュータでの作業：

1. データベースを停止し、オフラインで全体バックアップを実行します。
2. 32 ビット版のリリース 2 (9.2.0.2.1) ソフトウェアを、リリース 7.3.4 データベースが置かれている 32 ビット・コンピュータにインストールします。「ソフトウェアのみ」オプションを選択します。
3. リリース 2 (9.2.0.2.1) インストールからリリース 7.3.4 インスタンスに対して、移行ユーティリティ (mig.exe) を実行します。

関連資料： 『Oracle9i データベース移行ガイド』の付録 D 「移行ユーティリティによる Oracle7 データベースのアップグレード」を参照してください。

このガイドは、OTN で入手できます。

<http://otn.oracle.com/documentation/>

注意： 移行ユーティリティにより、Oracle7 制御ファイルの情報を含む変換ファイルが作成されます。アップグレード・プロセスで後ほど、この変換ファイルが ALTER DATABASE CONVERT によって使用され、Oracle9i で新規の制御ファイルが作成されます。変換ファイルの名前と場所は、オペレーティング・システムによって異なります。たとえば、UNIX オペレーティング・システムの場合、Oracle7 環境でのデフォルトの場所は ORACLE_HOME/dbs で、このディレクトリでのデフォルトのファイル名は convsid.dbf です。sid は Oracle7 インスタンスの ID です。Windows プラットフォームの場合、Oracle9i 環境でのデフォルトの場所は ORACLE_HOME¥rdbms で、このディレクトリでのデフォルトのファイル名は convert.ora です。

64-bit Oracle9i の Oracle ホームに移行するには、64-bit Windows コンピュータで次の手順を実行します。

1. Oracle9i Database for 64-bit Windows リリース 2 (9.2.0.2.1) をインストールします。

関連資料： 詳細は、『Oracle9i Database for 64-bit Windows インストール・ガイド』を参照してください。

2. コマンド・プロンプトで新規の Oracle9i データベース・サービスを作成します。

```
C:¥> ORADIM -NEW -SID SID [-INTPWD PASSWORD] -MAXUSERS USERS  
-STARTMODE AUTO -PFILE ORACLE_HOME¥DATABASE¥INITSID.ORA
```

変数の意味は次のとおりです。

変数	説明
SID	アップグレードしているデータベースの SID。
PASSWORD	新しい Oracle9i Database for 64-bit Windows のパスワード。これは、SYSDBA 権限で接続したユーザーのパスワードです。-INTPWD オプションは不要です。指定しない場合は、オペレーティング・システム認証が使用され、パスワードは不要です。
USERS	SYSDBA 権限および SYSOPER 権限を付与できるユーザーの最大数。
ORACLE_HOME	リリース 9.2 の Oracle ホーム・ディレクトリ。Oracle ホーム・ディレクトリのドライブ文字を含む、-PFILE オプション付きのフル・パス名を指定します。

3. 32 ビットのデータファイルを新しい 64 ビットの Oracle ホームにコピーします。
4. 移行ユーティリティによって生成された convert.ora ファイルを、64-bit コンピュータの ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥rdbms ディレクトリにコピーします。
5. 32 ビットの構成ファイルを 64 ビットの Oracle ホームにコピーします。
32 ビットの初期化パラメータ・ファイルに IFILE (インクルード・ファイル) のエントリがある場合は、その IFILE エントリで指定されたファイルを 64 ビットの Oracle ホームにコピーし、初期化パラメータ・ファイル内の IFILE エントリを新しい場所を指すように編集します。
32 ビットの Oracle ホームにパスワード・ファイルがある場合は、そのパスワード・ファイルを 64 ビットの Oracle ホームにコピーします。デフォルトの 32 ビットのパスワード・ファイルは、ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥database¥pwdsid.ora にあります。sid は、Oracle インスタンスの ID です。
6. 64 ビットの Oracle ホームでは、ワード・サイズを変更する前に、_SYSTEM_TRIG_ENABLED = false パラメータを初期化パラメータ・ファイルに追加します。
7. 『Oracle9i Database 移行ガイド』の第 3 章のデータベースのアップグレードに関する項を参照してください。
8. 最後に utlirp.sql を実行して、ワード・サイズの変更を完了します。
9. 初期化パラメータ・ファイルから _SYSTEM_TRIG_ENABLED = false パラメータを削除します。

7.2 Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) へのアップグレード

Oracle7 リリース 7.3.4 を Oracle9i リリース 2 (9.2) にアップグレードした後、『Oracle Database アップグレード・ガイド』の第 3 章「Oracle Database 10g の新しいリリースへのデータベースのアップグレード」の手順により、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) にアップグレードします。

8 Oracle9i データベースから Oracle Database 10g へのアップグレード

Oracle9i データベースを Oracle Database 10g リリース 1 にアップグレードする場合、タイムスタンプを使用する Oracle Flashback 機能は失敗します。この問題を回避するには、Oracle Database 10g データベースから次の SQL コマンドを入力します。

```
SQL> DELETE FROM smon_scn_time WHERE orig_thread <> 0;  
SQL> COMMIT;
```

この問題は Oracle の Bug#3994270 に記録されています。

9 OLAPSYS が所有する無効なパッケージ

特定の状況では、OLAP Catalog スキーマの OLAPSYS で所有される 2 つのパッケージは、アップグレードしたデータベースでは INVALID としてリストされます。パッケージは次のとおりです。

- CWM2_OLAP_AW_CREATE
- CWM2_OLAP_VALIDATE_MAPPING

これらのパッケージはこのリリースでは廃止されましたので、データベースから削除する必要があります。

```
DROP PACKAGE OLAPSYS.CWM2_OLAP_AW_CREATE  
DROP PACKAGE OLAPSYS.CWM2_OLAP_VALIDATE_MAPPING
```

10 Real Application Clusters におけるサービスおよび高可用性

注意： この不具合は、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1.0.3) の Patch Set で修正されています。

Bug#3636652 は、データベース・コンフィギュレーション・アシスタント (DBCA) を使用したサービスの作成に影響します。DBCA を使用して高可用性サービスを構成した場合、開始中に処理が失敗します。進捗バーが 50% 完了したことを示すとほぼ同時に、失敗します。このとき、DBCA には、DBCA がサービス *service_name* を開始できなかったことを示すエラー・メッセージが表示されます。

また、DBCA または SRVCTL で作成したサービスの開始に SRVCTL のコマンドを使用すると、次のエラーで失敗します。

- PRKP-01030: サービス *service_name* の起動に失敗しました。
- CRS-01006: 考慮するメンバーはこれ以上ありません。
- CRS-00215: リソース *resource_name* を開始できません。

回避策として、次の手順でパッチ・ファイル *racgchsn.exe* をダウンロードおよびインストールします。

1. ローカルのサブディレクトリにパッチをダウンロードします。
2. 次のコマンドを実行して、元の *racgchsn.exe* ファイルの名前を変更します。

```
rename ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥bin¥racgchsn.exe ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥bin¥  
racgchsn.bk1
```

3. 次のコマンドを実行して、ダウンロードした racgchsn.exe を ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥bin ディレクトリにコピーします。

```
copy download_location¥racgchsn.exe ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥bin
```

Oracle ホームが共有クラスター・ファイル・システム・パーティションにある場合、この手順は一度だけ実行する必要があり、クラスター内のどのノードでもこの手順を実行できません。

Oracle ホームが非共有ファイル・システムにある場合、つまり、Oracle ホームが各ノードがバイナリのローカル・コピーを持つファイル・システムに存在する場合、この手順をクラスターの各ノードで実行してください。更新した racgchsn.exe ファイルをインストールすると、DBCA や SRVCTL を使用してサービスを構成および開始できます。

11 Windows Server 2003 での Oracle HTML DB のインストール

Bug#3602534

Windows Server 2003 に Oracle HTML DB をインストールするユーザーは、インストールを始める前に env.exe パッチをダウンロードし、システムの PATH に設定する必要があります。env.exe パッチへのリンクは、Bug#3602534 で示されています。

このバイナリをシステムから削除すると、Oracle HTML DB のインストールが完了します。

パッチを検索およびダウンロードするには、次のようにします。

1. OracleMetaLink の Web サイトに移動します。

```
http://metalink.oracle.com/
```

2. OracleMetaLink にログインします。

注意： OracleMetaLink の登録ユーザーでない場合、「**Register for MetaLink!**」をクリックし、登録の指示に従います。

3. OracleMetaLink のメイン・ページで「**Patches**」を選択します。
4. 「**Simple Search**」を選択します。
5. 次の情報を指定し、「**Go**」をクリックします。
 - 「Search By」フィールドで、「**Patch Number(s)**」を選択し、**3602534** と入力します。
 - 「Platform or Language」フィールドで、「**Microsoft Windows (64-bit)**」を選択します。
6. 「**View README**」をクリックしてインストール手順を確認します。
7. パッチ・ダウンロード・ページに戻り、「**Download**」をクリックします。PATH の場所にパッチを保存します。たとえば、ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥bin です。

12 VIP コンフィギュレーション・アシスタント

RAC 環境へのソフトウェアのみのインストールを実行するよう選択した場合、Oracle Universal Installer では構成ツールは実行されません。この構成ツールには VIP コンフィギュレーション・アシスタント (VIPCA)、ネットワーク・コンフィギュレーション・アシスタントおよびデータベース・コンフィギュレーション・アシスタントが含まれます。

インストール後にネットワーク・コンフィギュレーション・アシスタントまたはデータベース・コンフィギュレーション・アシスタント、あるいはその両方を実行することを決定した場合、まず VIPCA を実行して VIP、GSD および ONS アプリケーションを構成して起動する必要があります。クラスタに対して一度、VIPCA のみを実行します。

VIPCA を起動するには、`ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\bin` ディレクトリから `vipca.bat` を実行します。

